

日本人医療・福祉従事者ネットワーク 障害者ケアについて

皆さん初めまして。三井洋です。今回、初めて担当させていただきます。私はメルボルンでソーシャルワーカーとしての訓練を受け、現在は州政府で障害者のケースマネジャーとして働いています。日本では社会学と社会福祉を勉強し、社会福祉士と産業カウンセラーの資格も持っています。日本でも軽度の知的障害や人格障害を抱えた非行少年を対象とした仕事に携わり、その更生の難しさ、社会の受け皿の狭さ、偏見の強さという現実と直面しました。それ以来現在まで、障害者との縁は少なからずあるようです。今回は、こちらの障害者に関するサポートについて取り上げたいと思います。

障害者には、障害の内容によって、個々のニーズに応じた援助が必要です。センターリンクからの障害年金のほか、州政府に障害者サポートの利用者として登録し、州政府からの援助を得て地域密着型のサポートを受けることができます。登録の際は、個別の問題に基づき、グループホームに入所して介護を受けるか、一定の支援費を得て住み慣れた自宅で生活するか選択します。特に、行動面や家庭における複雑な問題がある場合、ケースマネジャーがついて、比較的長期間の関わりの中で、サポートプランを立て、その中でサービスをコーディネートします。現在私が担当しているのはこの分野におけるケースマネジメントです。

ソーシャルワーカーはクライアントの自己実現と権利擁護のために努力しますが、何でもできるわけではありません。行政の枠内で業務をこなしていると、理想とはうらはらの決断を迫られることが多いのが現実です。クライアントにも自覚を求め、時には厳しいことを言わないといけません。時間をかけ、クライアントとその家族や援助者との信頼関係を築いていくのが基本です。これは地道な努力が必要です。たとえ知的障害があっても、相手の側に立って、わかりやすい説明をすれば、だいたいは納得してくれます。最終的には、クライアント自身に自己決定権があることを常に念頭に置いて日々の業務をこなしています。

私は、自立とは、自分で必要だと気づくことから始まると思います。人から言われて義務感でやるより、自分

で気づいてやる方が自分のためになります。自分でこれをしたとワーカーに提案できるようになれば、援助の効果はどんどん現れます。もちろん、いくら援助しても効果が出ない場面に出くわすこともしばしばあります。それでも決して感情に流されない冷静さ、法令根拠や客観的データに基づいた冷徹さが必要です。

知的障害者や言語障害のある方のコミュニケーションの中で心がけていることは、たとえ何を言っているのか分かりづらくても、とにかく相手の話を聞き、コミュニケーションを図ることです。特にテクニックというものはありませんが、相手の目線に合わせて、普通の会話をゆっくりとしていくことが大切かなと思います。以前メルボルン北部のグループホームで介護をやっていた時に、クライアントとのコミュニケーションが上手なのでまた一緒に仕事したいとよく言われました。日本人としての察しと気配りの能力が結構役に立ったのではないかと感じます。

こちらでも高齢者や障害者の介護や医療に携わっていらっしゃる日本人の方々が多くいらっしゃると伺っていますが、日常業務で感じることや疑問点について意見を分かち合うなど、何らかの形で交流を深めることができれば幸いです。私自身も、視野をもっと広げていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

(三井 洋 ソーシャルワーカー)

福祉関係に関わっている方、そのような方をご存知の方、ご連絡ください。また、ご意見、ご希望などありましたら、お知らせください。

専門分野の方たちとのネットワークを通して、幅広く役に立つ情報を提供していきたいと思っています。

代表：

パウニーゆみこ（ソーシャルワーカー及び社会福祉士）
yumiko50@hotmail.com

秋元みどり（介護士） midori.aki429@gmail.com
(0418-540-865)

日豪関係史

日豪関係史で、日本人にとって一番悲しい出来事はカウラ（Cowra）事件でしょう。

第二次世界大戦で日本と敵国となったオーストラリアは、日本の戦争捕虜をニューサウスウェールズ州にあるカウラの収容所に入れました。そこでは十分に食べ物も与えられ、レクリエーションなどを楽しむ自由を与えられたにもかかわらず、「生きて虜囚の辱めを受けず」と頭にたたきつけられていた日本兵は、敵の捕虜になることは非常に不名誉なことだと受け取っていました。実名を言えば日本にいる家族に迷惑をかけると考え、偽名を用いた人が、7、8割にものぼったと言われます。

事件のきっかけは、1944年8月カウラの収容人数

が定員をオーバーしたので、将校・下士官を除く兵士を400キロ西に位置するヘイ収容所に移す計画を8月4日に通達されたことでした。日本人は要求を受け入れるかどうか、脱走するかどうか多数決投票を行った結果、脱走することに決定。8月5日午前2時過ぎ、日本兵1104名が集団脱走を決行。その結果日本人231名、オーストラリア人4名が死亡。日本人108名が負傷し、全員捕縛されました。

今では、カウラ日本人墓地が建設され、日豪親善のために日本庭園も建設され、9月には桜祭りが行われ、日本からも多くの人々が訪れるということです。

(久保田満里子 記)